



Good Wood Communication!

掛川市森林組合通信[Vol.28] 2013年春号

かけがいの森から



慎重を要する特殊伐採作業 ～神社・寺院の境内にて～

通常の伐採作業が困難な木を、特殊技術を使って伐採

この冬の間、通常の伐採作業では対応できない、特殊な技術を使った伐採作業をいくつか行った。伐採する木が建物に近接していたり、著しく傾いていた

りして、通常のように木を横倒しにはできないのだ。こういった物件は神社や寺院の大本木が多い。

写真の現場はある寺院と神社。一方の現場では、自分の体をハーンズにつけた何本かのロープで吊り、空中を自由に動きまわることができるようにした「ツリークライミング」の技術を応用している。宙吊りになりながら本堂の屋根にかぶったシイを伐採した。

計算と技術、経験とカンがモノを言う。ひとつ間違えれば重大災害になるため、慎重に慎重を重ねた作業だ。作業していたいた方々のおかげで、今回の現場をなんとか無事終えることができた。

昔ではこういう伐採作業をする人を「空師」とも呼ぶようだが、青空に空師の技術が光った現場であった。



↑写真3枚

掛川市大須賀の寺院
本堂の屋根にかぶった大シイを伐採中。

←写真2枚

菊川市倉沢の神社
27m高所作業車とクレーン車でエノキを梢より伐採中。



平成25年度がスタート ～2人の新人が加入・職員全員に辞令～

4月1日新年度スタートの日、2人の新人の入組式と、全職員への辞令交付式が行われました。辞令交付の際には組合長より三つのことについて「二つの立場、二つの面を考えて、がんばってほしい」との訓示をいただきました。一つ目は「掛川森組職員9名の中の1人、県下20組合250名の森林組合職員の1人」この二つの立場。二つ目は「森林の公益的機能と、木材生産機能」の二面。三つ目は「組合員への奉仕と森林組合の安定」の二面です。

これらを両立していくことは容易なことではありませんが、9人の若い職員体制でがんばってまいりますので、これからもご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



2人の新入職員を紹介 ～須藤 翠・本目知之～

2人の共通点は牧之原市出身（1人は今は掛川市民）。これから掛川の森林のためにがんばっていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

左 須藤翠（すどうみどり）/右 本目知之（ほんめともゆき）



菊川市倉沢 神社のムクノキ

大きな空洞に二本の「気根」

特殊伐採したムクノキ。中は空洞で、人が這って通れるほどの空間が開いていました。その空洞は8mほど上の、三叉に枝分かれした部分の先まで続いていました。

驚いたのは、その枝分かれした部分から「気根」と呼ばれる根が地中に向かって細長く2本延びていたことでした。なんだか大尾山の鳥居杉に似ています。大きすぎたため縦に半分に割って運搬しました。



平成 25 年度の事業予定です

- ・**治山事業** 県の事業として、上垂木地区にて調査業務 40ha、本数調整伐 40haが予定されています。
- ・**森の力再生事業 (8年目)** 千羽・炭焼・久居島各地区で約 70ha程度実施を計画中です。
- ・**搬出間伐事業** 居尻・黒俣ほか地区で 40haの間伐。1200m³ 程度の間伐材搬出を実施します。現在、場所の選定中です。
- ・**森林経営計画** 居尻地区 115haで計画を樹立し、市長の認定を得ました。地権者の皆様、ご協力ありがとうございました。今年度より実際の施業が始まります。また、黒俣地区での新たな計画樹立を計画しています。

地籍調査事業がはじまります



平成 25 年度より森林の地籍調査事業が始まります。いままでの境界保全事業で培った技術を活かし、事業に取り組んでまいります。

ならここ南東部の森林 50ha が今年度対象地です。ご協力よろしくお願いたします。

大代国有林で間伐作業

原泉地区の東側、市境挟んで反対側に旧金谷町の「大代国有林」が広がっています。24 年度、掛川森組としては久しぶりに大代国有林の仕事をさせていただきました。260m³ の丸太を生産。島田の原木市場までお届けしました。



丸太を直送する場合には重要になるのは、仕分けを行う広い場所（山土場・中間土場）と、丸太の品質管理だ。今後も、この直送を選択肢に持ちながら搬出を行っていききたい。



通し柱用 6m材を三重の長材専門業者へ



6m材・4m材を地元掛川の製材業者へ

山から製材工場への直送を行う
 原木市場に荷を下ろさない
 森林・林業再生プランに基づき、各地で間伐材の増産が行われているが、丸太が一度に搬出されたことで原木市場は丸太で溢れ、何ヶ月も待たないと市に掛からないという状況が生じた。このボトルネックを回避すべく、製材工場への直送を行っている。



- ㊦ 焼いている最中
- ㊦ 窯の口を塞いで 10 日ほど経ってから口を開ける。懐中電灯で照らし、中から炭を取り出す。
- ㊦ 窯口を開閉する道具。柱に秋葉山の御札。

工房の代表 西尾さんにお話をうかがいました。

居尻・黒俣地区の有志で「なにか面白いことはないかなあ」と話していて、「炭焼きをやろう!」ということになったとのこと。昔からあった古い炭窯を作り直し、試行錯誤で始めたのが 3 年ほど前のようです。今では、窯を囲む本格的な小屋も出来、雨天でも作業に支障はなさそうです。炭焼きの魅力を探ねると、「木の種類や水分によって、焼くたびに違った炭が出来る。いい炭を焼こう!と皆で話しながら楽しんでいるところかな。」とのこと。

ゆったりした時間の流れの中、作業されていた皆さんは真っ黒になりながらも、とても生き生きとされていました。



「ここは時間がゆっくり流れている!」居尻の炭焼工房を見学!
 居尻のキャンプ場「ならここ」の近くに、炭焼工房「River Side 奥山田」がある。去る 2 月 18 日に「炭出しをやるぞー」と声をかけていただいたので、「是非見に行きませう!」と、窯から炭を出す様子を見学させていただきました。

“これいい!” 購買担当「藍ちゃん」の **オススメGOODS!!**

ウッドクラフト商品 **今回は報告です!**
「ヒノキのこすえ」を納品しました!

大阪府在住の方からご注文をいただき、納品させていただきました。高さ約 170cm! 到着後、写真付きでお礼のメールが届きました! お宅の雰囲気とよく合っていてステキです(^▽^)

3月21日 山行苗木を販売しました!

今年の販売本数は、杉・桧等 合計で 1,350 本でした。今までで一番多かった年が、昭和 45 年の 515,000 本 (植栽密度 3,000/ha なら 170ha 分!)。それから考えると随分減ってしまいました。



組合員さまへのお願い
 相続等で所有山林に移動 (相続・取得・売却) が生じた際は森林組合へご一報ください。組合員名簿および出資証券の名義変更が必要です。

ひとこと 原泉地区では今年の桜の開花状況はいまひとつでしたね。急激に暖くなった影響でしょうか? 少し残念でした。先日、山でヒキガエルの集団交尾を目撃してしまいました。あまりにすごい光景で、ちょっと写真は載せられません! しかしどうやって一箇所に呼び合うのでしょうか? 不思議ですね。かの地はカエルの卵で一杯です。

